

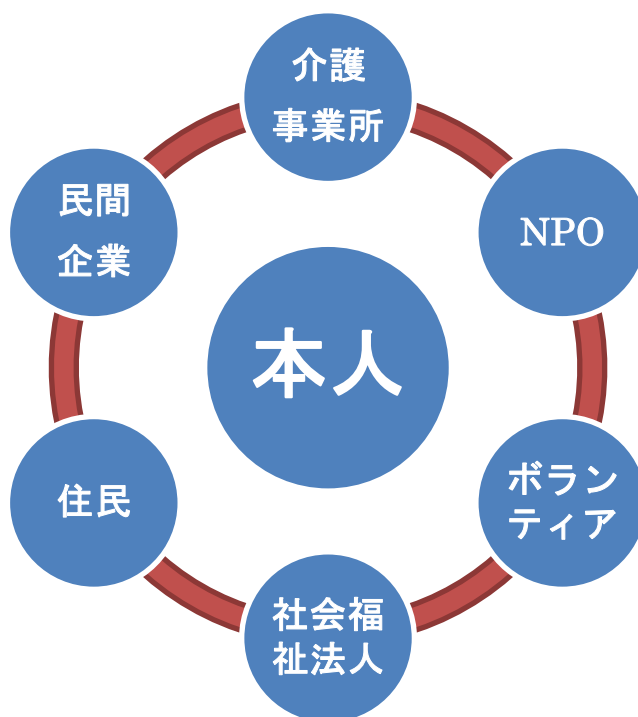
介護予防ケアマネジメントのあり方

【関係者間での意識の共有】

総合事業では、多様な事業主体が多様なサービスの実施主体となる。同一の目的の達成のためには、地域内に分散しているフォーマル・インフォーマル資源と、目指すべき方向性を共有して統合することが重要である。

また、高齢者自身も担い手として活躍することで、生きがいや介護予防にもつながる。

このような関係者が支援を必要とする本人の意識、ケアプラン、設定目標などを共有することが重要である。



【明確な目標設定と一歩進んだケアマネジメント】

目標設定

- 今はできなくなったが、かつて本人が生きがいや楽しみにしていたことなど本人の意欲を引き出せる本人らしさが反映された内容。
- 一定期間取り組むことで実現可能。
- 達成されたか具体的にモニタリング・評価可能。

事業実施・モニタリング

- 上記で設定した目標をサービス提供者で共有し、目標の達成に役立つプログラムを実施。
- 必要に応じて実施状況を把握。目標との乖離が、利用者本人や家族・サービス提供者からの気づきや事業実施の中でみられた場合は、再度ケアプランを作成。

評価

- 事業実施による成果の成功体験を蓄積して本人へ伝達。
- 設定した目標が達成された時には、セルフケアとして習慣化され、継続されるように、介護予防普及啓発事業の紹介など必要な情報提供、アドバイスを実施。

セルフケア・マネジメント推進

- 高齢者自身が機能維持向上努力を続けられるような、助言・動機づけなどの支援。
- 専門機関や専門職によるセルフケアマネジメント講習・プログラムの提供。
- 高齢者と接する関係者からのセルフケアマネジメントの働きかけ。